

平成 22 年 10 月 12 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社  
代表者 代表取締役社長 山田 英  
(コード番号 4563 東証マザーズ)  
問合せ先 経営企画部長 鈴木 文彦  
電話番号 03-5730-2480

静脈投与可能な改良型デコイの開発に成功  
— 学術専門誌へ掲載のお知らせ —

当社は大阪大学が進めております静脈投与による全身投与を可能にした第二世代デコイの開発に成功したことをお知らせいたします。大阪大学の研究チームは、第二世代のリボン型NF- $\kappa$ B/etsキメラデコイオリゴの研究において、腹部大動脈瘤に対する有効性を確認し、その結果を学術専門誌「Molecular Therapy (オンライン版)」に掲載いたしました。

リボン型とは血中での安定性を高める目的で末端領域をサークル状に修飾して構造を変化させたものです(ダンベル型とも呼ばれています)。また、NF- $\kappa$ B/etsキメラデコイとは、NF- $\kappa$ B 及びets の二つの転写因子に対する阻害作用を有するダブルデコイです。

本研究では、従来の構造未修飾型とリボン型のNF- $\kappa$ B/etsキメラデコイをそれぞれラット腹部大動脈瘤モデルに持続投与したところ、未修飾型では有効性は認められませんでした。リボン型は動脈瘤の大きさを統計学的に有意に抑制しました。このことから従来の未修飾型からリボン型への構造改変により血中安定性が大幅に向上した事が示唆されました。

大動脈瘤は無症候性に発症、増大し、最終的に破裂すると生命の危険が脅かされる疾患です。大動脈瘤の現在の治療法は、破裂予防として膨隆した動脈壁を取り除き、人工血管やステントグラフトに置換する手術が主に行われております。最近、検査・診断法の発達により動脈瘤が小さいうちに発見できるようになってきておりますが、残念ながら動脈瘤病態の進行抑制、退縮が期待できる有効な薬物療法がないため、早期発見のメリットを生かした薬剤による治療法の確立が望まれております。

今回の研究成果により、血中での安定性が大幅に改善したリボン型キメラデコイは、将来的に静脈内投与(全身投与)による腹部大動脈瘤の治療薬開発につながると期待されます。

本研究結果は<http://www.nature.com/mt/journal/vaop/ncurrent/full/mt2010208a.html>に掲載されています。

なお、本件による 2010 年 12 月期における業績に与える影響はありません。

以 上